

第106号
2011年9月1日発行

愛道

あいどう



テーマ 「輪」

社会福祉法人 足羽福祉会

<http://www.asuwafukushikai.jp/>



足羽福祉会の機関誌「愛道」では、単に施設の催しを載せるのではなく、私たちが日常行う福祉サービスの中で利用者の方やご家族、地域社会との間で起きる悲喜交交の様子を切り取って、毎号掲げるテーマに合わせながら分かりやすくまとめた内容を掲載しています。

私たちは利用者の方がよりよく生きていくため、ご本人やご家族の思いに寄り添って、困ったことやうれしいことなどを共有し、職員一人ひとりができることを模索しながら取り組んでいます。こうした場面を各施設から選抜される編集委員がさまざまな視点から掘り下げ、利用者の方を支えるつながりの輪が広がっていく様子を紙面にしています。現場でのサービス提供と並行して編集作業を行う分苦勞も多いですが、ご覧いただく皆様の間でどのような会話の輪が広がっていくのかを想像しながら、編集会議で熱い議論を重ね「愛道」を仕上げています。

ぜひ皆様のご感想をお寄せください。

理事長 高村昌裕





目次 もくじ

- 4 子どもの命を守るために 足羽東保育園
～職員がひとつとなつての避難訓練～
- 6 つながり、広がる 足羽学園
～喜び、真似を経て～
- 8 期待!興奮!感動!! 足羽更生園
～ハッピードリームサーカスに出かけて～
- 10 たくさんの方に支えられて 足羽ワークセンター
- 12 音楽で広がる思い 愛全園
- 14 「ミエナイチカラ」をひきだして 足羽利生苑
- 16 特集記事「愛道ができるまで」
- 17 平成22年度決算報告
- 18 愛のささえ



「表紙について」

とある公園でレクリエーションを行ったときのワンシーン。
 ご覧のように利用者の方と職員が素敵な笑顔でつながっている
 その姿に思わず心が“ほっこり”しました♡
 (足羽ワークセンター 長田真紀)



子どもの命を守るために

職員がひとつとなつての避難訓練

みんなの心に深く刻まれた出来事

2011年 3月11日 午後2時46分 東日本大震災

同じ日本の地での大惨事。メディア情報から、想像を絶するほどの悲惨な光景が映し出され、目を疑った。このような大災害が起こったとき、当園ではかけがえのない子どもたちの命を守れただろうか？

動き出した保育園

今までの訓練の甘さを痛感した職員は園内会議で、当園の避難訓練の現状や今後の課題を出し合いました。「子どもの命を守るのは保育士。いろんな場面を想定し、それに対応できる職員が必要」このことが、保育園として子どもの命を守るための大きな課題となりました。そこで今回初となる大規模避難訓練を行うこととなりました。



<訓練の流れ>

地震発生→地震により火災発生→園外へ一次避難→
大規模火災となり隣施設の“すだちの家”に二次避難→指定避難
所の上文殊小学校体育館まで園バスにて三次避難

※赤の部分が今回初となる訓練

大規模 避難訓練実施

当日は、初めて行う訓練

に職員の心意気はいつも以上でした。いかにスムーズに避難させることができるかを考え「私が子どもたちを誘導するから、〇〇先生は未満児クラスの応援を！」園バスが来たから誘導お願い！」などと声をかけ合いながら動きました。しかし、ふだんすぐにはできるはずのおんぶに時間がかかる、避難袋を忘れ子どもをおんぶしたまま園内に戻ってしまう、リーダー保育士の指示がないと動けないなど、新しく行う訓練への焦りから適切な行動がとれない現実もありました。

子どもたちの行動からは、自ら机の下に隠れる、ハンカチで口を押える、保育士の話を真剣に聴き指示に



従うなど毎月の訓練が身につけていると感じられました。その反面、防災頭巾は体験不足からかぶり方がわからず戸惑う、不安から泣いて歩けなくなってしまう、慣れないスリッパを履いての移動に手間取るなど、子どもたちに身につけないといけない課題も見えてきました。

訓練から得たもの 〜話し合いより〜

今回の震災をうけ職員の意味がわり、浮かび上がる気づきは今までとは違うものでした。

(一部紹介)



机の下に身を隠す子どもたち

A保：防災頭巾はいつ子どもにかぶせるべきか迷ったわ。

B保：地震の周期は1分位らしいから、慌てず、まずは机の下で身を守り、揺れが少しおさまってから頭巾をかぶるとよいのでは。また、

その1分の間、次はこの子どもたちをどう守っていくかを考えないとな。



避難袋、救急箱を持って“すだちの家”へ

C保：避難袋、救急箱など、避難時、持ち出す物が多くて大変だった。

D保：持ち出しも大事だけど、一番は子どもの命が優先ね。

E保：できるだけ最小限にして運びやすいようにしておかないとな。

D保：避難通路が歩道だと車の横転や電柱も倒れてくる可能性もあって危険じゃない？

F保：それに道路は緊急車両が通るから、横の砂利道

を通るのが安全だわ。砂利道を歩く練習も必要ね。

G保：スリッパは履きやすいけど歩きにくいよね。

C保：でも裸足だと危険物を踏むかもしれないし、靴は履くのにかかるし…。

A保：遠くへの避難を考えると靴の方がいいかもね。日頃から立ったままサッと脱ぎ履きできるように、遊びに取り入れるのもいいわ。



スリッパを履くのに手間取る子どもたち

B保：地震の影響で音響機器が故障し、放送を流せないかも…。

D保：とっさの判断で生死

が左右されるから、放送や指示に頼らず、自分ひとりであっても『命を守る』という責任感を持つべきね。

職員みんなが子どもたちのことを一番に考え、よりよい訓練にしていくなために意見を出し合い、改善策を見い出すことができました。

私たちの使命

かけがえのない子どもたちを預っている保育園だからこそ守るべきたくさん命があります。

だからこそ「あの時の訓練が活かされて助かった」と思えるよう、今後も毎月の訓練を意義あるものにしていきたいと思います。

どんな災害でも職員が一人丸となり、その命を守ることが私たちの使命です。

みんなの広場 〜職員紹介〜

足羽東保育園では、**さまざまな音楽や心地よいリズムに合わせて表現豊かに体を動かすこと**を目的とした『リトミック遊び』を取り入れています。体操教室担当の西谷大介保育士が、平成22年4月から1年間、リトミック研修に参加しました。そして、今年の3月に行われた試験に見事合格し、資格を取得しました。



子どもたちに、音楽に合わせて全身を動かす楽しさを伝えていきたいです！

つながり、広がる

〜喜び、真似を経て〜

足羽学園では、11歳から22歳までの幅広い年齢層の方が利用されています。年上の利用者の方がお手本になり、優しく声をかけます。年下の利用者の方はそんなお兄さん、お姉さんの後ろ姿を見て成長します。

今回は、利用者の方同士が自然な形で広がる、つながりを紹介します。



2人はいつも仲よし

【浮かび上がる存在】

ある日の職員同士の会話で、こんな話が出ました。「最近、AさんとBさんってよくお手伝いしてくれるよね。特にAさんは今まで以上に頑張っていると思う」

Aさん、Bさん共に、現在養護学校の高等部3年生。そんな2人の姿は、約2年半前に足羽学園から足羽ワークセンターに移行した利用者の方の姿が受け継がれ、成長していると感じています。当時AさんもBさんも高等部1年生でしたが、当時どのように感じていたの

か、お手伝いを続けるようになったきっかけは何だったのか、インタビューをしました。

【感謝され、うれしい、楽しい】

Q. 先輩の2人が足羽ワークセンターに移行して、どう感じましたか？

Aさん：寂しかった。でも、僕も足羽学園で頑張ろうと思った。

Bさん：ワークセンターに行っても頑張ってほしいし、僕も頑張ろうと思った。今も夏祭りや交流で会えるのはうれしい。

Q. 職員のお手伝いをしてくださったたり、年下の子に優しく接して下さっているきっかけは何ですか？

Aさん、Bさん：職員に「ありがとう」と言ってもらえたのがうれしかったから。

Q. 帰省や外出で家に帰ったときもお手伝いをしてい

るんですか？

Aさん：洗濯物を畳んだり、片付けたりしているよ。
Bさん：あんまりしていないなあ。

Q. お手伝いをしている時はどんな気持ちですか？

Aさん：疲れることもあ
るけれど、楽しい。
Bさん：頼りにされているのがうれしいし、楽しい。
ずっとしていると疲れるけれど、少し休憩したらまたしようって思う。

いつもお手伝いをしてくださってありがとうございます。
（職員一同）



寝る前に洗濯物を運ぶお手伝い

【僕、私もするよー！】

ふと日々の生活を見てみると、彼らだけではなく、

年下の利用者の方もお手伝いをしてくださっていることに気づきました。職員に「〇〇のお手伝いをしていただけませんか」と声をかけられてされる方もいれば「僕、食堂掃除の手伝いする

よ！」「トイレ掃除の手伝いしようか？」と自ら積極的にお手伝いをしてくださる方もいます。

また、あるときは中学部の女子利用者の方が、高等部の男子利用者の方の車いすを押し、一緒に食堂に向かう光景が見られました。自然と手を差し伸べていて、その男子利用者の方も笑顔

を見せていました。それはとても温かい場面で、感謝を受けました。



他の利用者の方が途中でやめても、最後まで丁寧に掃除をしてくださいます

私たちが家庭や学校で経験してきたように、年下の子は年下の子の世話をしたり、年下の子は年上の子の真似をしたりします。そして知らず知らずのうちに次の世代へと続いていきます。そういつたつながりが、足羽学園の利用者の方の中でも、ごく自然な形となってこのように現れているということは、それぞれ利用者の方同士で支えあっているということではないでしょうか。私たち職員はそのつながりが広がるよう声をかけ、感謝の言葉をたくさん伝えていきたいと思えます。

みんなの広場

職員紹介～NEW FACE～

4月に足羽東保育園より異動してきた野坂保育士を紹介します♪

- Q. お名前は？ A. 野坂 郁江です。
 Q. 休日は何をしていますか？ A. ピアノや部屋の掃除です。
 Q. 今ハマっていることは？ A. ウォーキング♥



- Q. 足羽学園に異動して感じたことは？
 A. 足羽東保育園でもそうでしたが、利用者様の純粹さをとても強く感じます。
 Q. 今後の目標をどうぞ！
 A. 足羽東保育園で学んできたことを活かしながら頑張りたいです(^o^)/



待ち遠しいな…楽しみだなあ

足羽更生園では「社会参加活動」を通して、利用者の方々の外出する機会を多く設けています。お店でコーヒーやパフェを食べたり、お買い物に出かけたり、ときには「朝倉氏遺跡」で歴史に触れたり…いろいろな場所に出かけ、ふだんの生活とは違う雰囲気味わっています。

今回はその活動の一環

「ハッピードリームサーカス」に出かけて

期待！興奮！感動！！



として、ハッピードリームサーカスから招待を受け、足羽更生園すべての利用者の方を対象に数回に分けて出かけました。

「いざ！サーカスへ♪」

サーカスに出かける前は、廊下や掲示板上に貼られたポスターを見ながら「こんな出るの？」（ピエロを指さし）面白い顔など、期待と緊張の入り交じる思いが利用者の方の興奮を最高潮にさせていました。

そんな期待を膨らませ、いざサーカスへ！

車窓から、青と白のサーカスのテントが見えるとバス内は歓声に包まれました。サーカスでは空中ブラン

コ、ネットゲージ内を四輪車とバイクが駆け回るカースタントショーなどなど。目で見て、耳で音を楽しみ、また火を使う演目では火の熱さを肌で感じるなど、五感をフル活動させるものばかり。想像以上の光景が目の前で披露され、とても刺激的な時間を過ごしました。



観覧中

利用者の方からの手紙

サーカス面白かったです。
3つの輪(大車輪)すごかったです。
空中ブランコまた見たいです。



サーカス良かったよ♪ピエロ面白かったよ。絵の人はピエロだよ。また、行きたいわ。サーカス驚いたわ！
ありがとう。ありがとう。



サーカス楽しかったよ。
車とバイクと一緒に走るのが一番すごかった。
また行きたい♪
ありがとうございました。





ふだんの外出時、バスからなかなか降りない利用者の方もサーカスでは終始座って楽しまれ、またある利用者の方はピエロのボールを欲しがり追いかけるなど、ふだんの生活では見られない姿に職員も思わず微笑んでしまいました。

「サーカス関係者からのメッセージ」

人間の限界に挑戦する姿、いのちをかけた技は足羽更生園の利用者の方へ驚きと感動をご提供できたと思います。これからも利用者の方には素直な心で

作業に取り組んでいただき、元気に一生懸命に生きて悔いのない人生を歩んでいただきたいと思います。一緒に新しい明日へ歩んで行きましょう。

ドリームサーカス(株)
事務局長 鈴木恒人 様

今回はハッピードリームサーカスからの招待を受けて、ふだんの生活では味わえない興奮、感動をしました。さまざまな機関や地域とのつながりが利用者の方の生活をより豊かで実りのあるものにして下さいます。今ある輪を大切に、そしてこれからもたくさんの輪を広げ、多くの感動や喜びを利用者の方と共にわかち合いたいと思います。

みんなの広場 ～職員紹介～



カペラ寮 リーダー
中川 和典 支援員

中川さんは「よさこい」チーム『越前^{いっちょうら}一張羅 & キャンディポップ S. J.』のメンバーの一員。このチームは2010年福井ぺんたワイワイ夏祭り「ぺんたYOSAKOI イッチョライ」で52チーム中、見事大賞を獲った強豪チームです。

よさこいは「踊り子、声だし、旗振り」に分かれており、中でも「声だし」は曲に迫力をもたせ、踊り子の気持ちを振り立たせる重要な役目です。

中川さんはこの「声だし」を担当し、盛り上げています。

これからも「よさこい」を通して福井に最高の夏を届けてくれるでしょう♪♪♪



たくさんの方に支えられて



毎日バスを利用し通勤しています☆

足羽ワークセンターのケアホームを利用されているAさん。平成22年12月末頃から就職に向けた実習の話が出ました。しかし『リウマチで手が思うように動かないから就職は難しいのではないか』『人間関係に自信がない』などたくさんの不安を抱えていました。

それでも『就職したい！』という希望を持ち続けていたAさん。長い実習を乗り越えて、晴れてコンビニ等の店頭で陳列されるおにぎりを作る会社に就職することができました。

今回は、Aさんの就職への挑戦の様子を紹介します。

就職に向けて スタート

実習していくにあたって、外部の方からの専門的な支援も必要であるため、福井県障害者職業センターのジョブコーチ支援事業(※①参照)を利用し、Aさんの就職に向けての支援が始まりました。

事前の話し合いいの中で、Aさんの良い面と課題がいくつかあがりました(※②参照)。

実習が始まってもまず課題となつたことは、リウマチで両手の変形してしまつていて、作業のとき使用する大きめの手袋を、

※②

課題	良い面
<ul style="list-style-type: none"> ● 作業着の着脱困難 ● 自信が持てない ● 職場の方との関係づくり ● 人の言葉を重く受け止めて自己嫌悪になる ● どこまで作業が可能か 	<ul style="list-style-type: none"> ● 挨拶、返事がとてもいい ● 感謝の気持ちが言える ● 丁寧に仕事をする



※① 障がいを持った方がスムーズに一般企業へ就労できるように、支援計画に基づきジョブコーチが職場に向いて直接支援を行う事業。

作業が変わるごとに交換するのに時間がかかることでした。

その課題に対し、密着し
やすい手袋をまず素手には
めることで、スムーズに交
換ができたため、会社側に
この方法を提案していきま
した。会社の方も、苦勞して
手袋を交換している場面を
見ていたため、理解して下
さり提案した方法を取り入
れて下さいました。

Aさん自身も、会社の方
のやり方を見て、何とかし
て自分自身の体で覚えてい
こうと、手先を駆使しなが
らも努力していききました。
実習を重ねていくにつれ
て、このような、一生懸命に



職員が悩みを聞き相談にのります

仕事を覚えようとする姿が
たくさん見られるようにな
りました。

しかし、初めてのことや
苦手なことをするときには、
自信が持てないためか「難
しい。できない」とすぐに諦
めてしまう姿が出てきまし
た。その都度、本人には『初
めてのことは、回数をこな
すことで身につくこと・最
初に比べると上手に作業が
できていること』を伝えて
いききました。

また、会社の方からも「一
生懸命やっている姿をいつ
も見ていますよ」という言
葉をいただき、Aさんは少
しずつ自信をもって仕事に
取り組むことができるよう
になっていきました。

念願叶って。。

数か月が過ぎ、Aさんか
ら積極的に会社の方に質問
をしたり、作業スピードも徐々
に速くなっていったりと良

い変化が見られるようになって
いきました。また、作業
が間に合わないときは、従
業員の方からサポートして
いただいたり、本人がわか
りやすいように作業道具に
名前を書いてくださったり
と、会社内のサポートも増
えていきました。

このようなAさんの、一
生懸命に仕事に取り組む
姿を会社側は認めてくださ
り、平成23年5月1日に正
式に雇用されることにな
りました。



「たくさんの方に食べてもらいたいです！」と
意気込みを見せているAさん

現在、週に約1回のペースで
ジョブコーチの方が支援に入っ
てくださっています。職場の方
から言われたことに対し自己
嫌悪になること・変更事項に
対応するのが難しいことが現
在も課題としてあります。
就職して支援がそこで終わ
るのではなく、就職後も定期
的に訪問し、本人の状況を確
認していくことが大切です。ま
た、このことは、足羽ワークセ
ンターでも力を注いでいるこ
とです。

今後も、このように他機関
とのつながりを大切にし、利
用者の方の頑張りを支えてい
きます。

みんなの広場

職員紹介

足羽ワークセンターの
職員の間で現在ブームになっ
ているもの、それは「マラソ
ン」です。

1人で始めたマラソン
の輪が、2人、3人と増え、
現在は男性6名・女性1名
の「足羽走ろうの会」という
大きな輪に成長しました。

福井駅前マラソン、丸岡
古城マラソンを完走し、現
在は10月の福井マラソンに
向けて、オフの時間に走り
こんでいます。興味のある方
ご一緒にいかがですか？



第6回坂井市
古城マラソン完走☆



音楽で広がる思い



齊藤さんを交えて、癒しの音楽レクリエーション(左:黒田さん、右:齊藤さん)

楽しい雰囲気や熱い思いに、人は引きつけられます。音楽が大好きな職員の黒田実さん。当初は1人で始めた音楽レクリエーション(※以下音楽レク)という活動に、1人2人と人が集まっていきました。黒田さんの思いが広がっていった様子を、インタビューを交えながらお伝えします。

始まりの音

デイサービスや、入所されている利用者の方の余暇活動として、黒田さんは数年前から音楽レクを始めました。そのきっかけについて、黒田さんの思いを聞きました。

『以前に勤めていた老人福祉施設での出し物で、昔から趣味だったギターを使って、童謡を演奏しました。そのとき、ふだんはほとんど反応のない利用者の方が、満面の笑みで歌っていました。のを見て、これだ!と思いました。』

何気ない出来事がきっかけとなり始まった音楽レクですが、その後どのように広がりを見せていったのでしょうか。

伝わる思い実感

音楽レクでは、利用者の方と簡単な手遊びを使って童謡を歌うことから始まり、途中から鈴やタンバリンなどの楽器を使います。そして、ギター伴奏に合わせて楽器を鳴らしながら共に歌います。『音楽レクが終わった後も、利用者の方の笑顔は続くんです。そんな瞬間を目の当たりにすると、音楽の

凄さを思い知らされます』と話す黒田さん。

そんな音楽レクを通して、利用者の方や、職員からの感想を紹介します。

・音楽レク大好きです。とても素敵。また聴かせてください。
(90歳女性)

・みんなで歌ったり、好きな歌をリクエストして演奏してもらったりするのがうれしい。楽しみにしています。
(74歳女性)

・利用者の方たちが、とても喜んでいきます。黒田さん自身が楽しんでるので、私たちも楽しくなります。癒しの時間です。
(職員の門前さん)



黒田さんは個人的に他施設を訪問しています

重なる音

ある日、職員の齊藤俊一さんも交えて音楽レクを行いました。いつもとは違う選曲、声の大きさや響きに、フロアーの雰囲気が変わっていました。

この後、2人に感想を聞いてみました。

黒田さん ギターの話をしているうちに、一緒にしてみようということになりました。齊藤さんはギターがとても上手なので、ゲストとして弾き語りしてもらおうことが多いです。2人になると、音量もパワフルになり、よりスケールの大きな音楽レクを行うことができます。

齊藤さん 黒田さんの音楽レクを初めて見て、人を楽しませる力に感動し、自ら「一緒にお手伝いをさせてもらいたい」と声をかけました。当日は、初めてと思えないほどスムーズに、楽しんで行うことができました。

広がる思い

就業時間が過ぎた後、デイサービスのホールからギターの音色が聞こえてきました。その音色に誘われ足を運ぶと、リラクセスした表情でギターを演奏する数人の職員の姿。その様子を見て『僕もやってみようかな』とときどき、こうして集まろう』と話す姿など、そこには、業務中とは少し違った、それぞれの表情がありました。



くつろいだ雰囲気の中でのギター練習



楽器を鳴らしながら、大きな声でのびのびと歌われる利用者の方々

最後に、音楽レクにかけ
る思いや目標について、黒
田さんに聞きました。

『目標は、ひとりでも多
くの方が笑ってくれること
です。現在は、レクリエーショ
ンのひとつですが、今後は
少しずつ「音楽療法」と言
えるものになるよう極めて
いきたいと思っています。』

ふだんは、笑顔や活動の少
ない方でも、音楽レクでは生
き生きとした表情を見せて
くださいます。その陰には、
このような職員の連帯感が
あります。

ひとりの力は小さいけれど、
ひとりが心から楽しみ、意欲
を持って動くこととする活力が、
利用者の方や周りの職員に
も伝わり大きな力となって
います。今後も愛全園の活力
の輪を広げていきます。

みんなの広場

～職員紹介～

愛全園職員紹介の「トッ
プバッター」は、せりかわ 糺川美智代
さんです。

なぜ「トップバッター」
かというと、野球大好き♡福
岡ソフトバンクホークスの
大ファン♡

ふだんはテレビ観戦に盛
り上がり、年に一度は、はる
ばる福岡ヤフドームへ!!
メガホンを両手に、黄色い
声援をとばす姿は、まるで別
人!!



そんな糺川さんの
つぶやき..:

毎試合、選手のファインプ
レイはパワーと感動をもらう
と同時に、私にとって何にも
勝るビタミン剤。疲れも吹っ
飛び元気も100倍!!
野球も仕事も、チームワー
クが大切です。

私も利用者の方にパワーと
感動を与えられる「チーム愛
全園」を目指し頑張ります。

「ミエナイチカラ」 をひきだして



「いくつになってもできる限り地域の中で過ごしていきたい…」
この思いに応えるべく“地域密着型デイサービスセンターきらく楽”では、
地域参加の活動を行っています。

笑顔いっぱい

「こんにちは〜!!」

とても元気な子どもたちの
声と笑顔が、バスから降りた
利用者の方(※以下お年寄り)
を迎えてくれました。

ここは足羽利生苑とほど
近い場所にある福井市立酒
生幼稚園。今日はお年寄りが
楽しみにしていた子どもた
ちとの交流の日です。元気な
子どもたちを見たお年寄りは、
くしゃくしゃな笑顔を見せ
ていました。



笑顔で緊張もほぐれたと
ころで早速、お年寄りと子ど
もたちが手をつないで敷地
内へ散歩に出かけました。そ
こには水車のある小川が流
れていたりと、ひょうたん池が
あったりといろんな生物や
植物と触れ合うことができ
る自然の宝庫です。お年寄り
の歩幅に合わせてゆっくり
歩いてくれる、やさしい子も
たくさんいました。

うするとピーつと音がなる
んやぎ」と子どもたちに草
笛を教えてくださいました。
すると好奇心旺盛な子ども
たちは一生懸命吹き始めま
した。また、オオバコで草ず
もうのやり方を伝えると、
とたんにあちこちでにぎや
かに草ずもう大会が始まり
ました。子どもたちの中
には教えてくださったお礼に
とと、花をどこからか摘ん
できてプレゼントする子も
できました。

子どもたちにとって、お年
寄りはなんでも知っている



大先生。お年寄りにとって子どもたちは、自分の子ども時代を思い出し、温かい気持ちにしてくれる孫のよう。世代を超え、笑顔あふれる時間を過ごすことができました。

まだまだやれるぞ！

また春になると、酒生郵便局の花壇をお借りして花の苗を植えます。この活動を通して自然に触れ合い日常生活にメリハリが付き、季節感を感じることができません。いつも「腰が痛い」と訴えている方でも、この日ばかりはシャベル片手にいきいきと作業されています。

一生懸命な利用者の方に、住民の方も声をかけてくださいます。

「この花壇は足羽利生苑の方が手入れされてたんですね。ご苦労さまです」

「おばちゃん、久しぶりに会うけど元気にしてた？」

ふだんなかなか会う機会

がない方との触れ合いは、利用者の方をとっても幸せな気持ちにしてくれます。

人・地域・土地・自然との輪

デイサービスに通う利用者の方は、身体が思うように動かなくなることで、住民の方との交流や地域活動への参加は少なくなっています。いつまでも住みなれた地域で暮らしていただきたい…。そのために今後とも人・地域・土地・自然との輪を大切に、利用者の方が持っている「ミエナイチカラ」を引き出していけるような活動を続けていきます。



みんなの広場

職員紹介

足羽利生苑介護職員の金子和範さん。持ち前の明るさでムードメーカー的存在です。



そんな金子さんの特技は空手！10年も続けられています。



練習姿は真剣そのもの。緊張感の中、ふだんとは違う一面が見られました。「体を動かすことでリフレッシュでき、仕事への活力にもなっています」

今後の活躍に期待しています。

こんなレイアウト
どうですか？

1 企画会議

- 前号の反省と新テーマ決め
- 各施設、原稿案を発表
- 全体イメージの方向性決め

2 原稿作成

- 施設毎に取材などを敢行
- 取材の内容に合わせて原稿を作成します。

日本語って
難しい…。

何が一番
楽しかったですか？

こんなでは
締め切りに
間に合わんわ…。

愛道

あいどう

ができるまで

足羽福祉会6施設の編集委員が集まり、年に3回、機関誌「愛道」を発刊しております。
皆様にお届けするまで、私たち委員はどのような“汗”をかいているのか…今号初公開!?

3 編集会議

- タイトル・レイアウト・本文などのチェックと校正
- 印刷業者へ提出→校正…3回繰り返す
- 文章、全体レイアウトの最終チェック

添削による真っ赤な原稿!!

図解した方が
読み手にとって
分かりやすいのでは？

4 発刊

- 配布する部数をチェックし、出来たてホヤホヤの愛道を皆様のお手元へ!

無事完成!!
お疲れ様でした~!!

平成22年度社会福祉法人足羽福祉会の財務諸表を公開します。

平成23年5月21日開催の理事会・評議員会に承認されたものを簡略化した内容となっております。

貸借対照表 (平成23年3月31日現在)

科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
資産の部		負債の部	
流動資産	1,181,241	流動負債	167,666
固定資産	2,117,102	固定負債	110,365
基本財産	1,599,413	負債の部合計	278,031
その他の固定資産	517,689	純資産の部	
		基本金	155,158
		国庫補助金等特別積立金	738,568
		その他の積立金	234,385
		次期繰越活動収支差額	1,892,200
		(うち当期活動収支差額)	(183,366)
		純資産の部合計	3,020,311
資産の部合計	3,298,343	負債及び純資産の部合計	3,298,343

脚注1.減価償却費の累計額 1,785,716(千円)

事業活動収支計算書

自平成22年4月1日 至平成23年3月31日

科目	金額(千円)
就労支援事業活動収入	25,359
就労支援事業活動支出	23,609
就労支援事業活動収支差額	1,749
福祉事業活動収入	2,036,922
福祉事業活動支出	1,839,864
福祉事業活動収支差額	197,058
事業活動外収入	1,635
事業活動外支出	425
事業活動外収支差額	1,210
経常収支差額	200,017
特別収入	30,106
特別支出	46,757
特別収支差額	△ 16,651
当期活動収支差額	183,366
前期末繰越活動収支差額	1,504,434
当期末繰越活動収支差額	1,687,800
その他の積立金取崩額	280,400
その他の積立金積立額	76,000
次期繰越活動収支差額	1,892,200

資金収支計算書

自平成22年4月1日 至平成23年3月31日

科目	金額(千円)
就労支援事業収入	25,359
就労支援事業支出	24,410
就労支援事業活動資金収支差額	948
経常収入	1,874,169
経常支出	1,592,976
経常収支差額	281,193
施設整備等収入	6,573
施設整備等支出	312,972
施設整備等資金収支差額	△ 306,399
財務活動収入	289,966
財務活動支出	99,704
財務活動資金収支差額	190,262
当期資金収支差額計	166,083
前期末支払資金残高	951,070
当期末支払資金残高	1,117,152

注)各数値からは法人内部間の取引は控除されています。

愛のささえ

ご協力ありがとうございました

平成23年4月1日から平成23年7月31日までのの方々を掲載させていただきました。

【本部】

(寄付・寄贈)

渡辺冷凍食品(株) 北陸テラップス(株)

清風荘 野路電気管理事務所 ミヤマベーカーリー(富田正幸) 福井市医師会臨床検査センター キングラン

中部(株) 財福井県予防医学協会 山元菊丸商店 (株)アコス (株)キトー建築事務所 (株)タナックス 暁産業(株)

高橋商店 福井医療(株) (株)キッチンプラント (有)エフオーシステム 畑中厨房(株) エースクリーニング (株)高島松文堂 (有)内田精肉店 (有)けんこーや 丸三製菓(株) 福井県環境事業(株) データシステム(株) リコー

シヤパン(株) 藤島電気工事(株) (株)福井建材社 一円玉募金

(見字)

(福京都府社会福祉事業団)

【足羽東保育園】

(ボランティア・交流・訪問)

上文殊駐在所 文殊苑 上文殊公民館 上文殊小学校 上文殊幼稚園

やまびこ合唱団 東郷リリープ 山伝製紙株式会社 県警察音楽隊 福井県食品衛生協会 ほのほのサロン

宮川定幸

(研修・実習・見学)

佐々木愛 足羽第一中学校

【足羽学園・足羽更生園】

(寄付・寄贈)

清水歯科医院 パナソニックエレクト

ロニックデバイス労働組合福井支部 竹村勉 福井県しあわせ文庫

(ボランティア・交流・訪問)

キリスト教婦人部会 美山中学校吹奏楽部 すずらん会 連合福井福

井地域協議会 ドリームサーカス(株) 福井農林高校郷土芸能部 竹村勉

近藤善勝 大野志保子 岩田勇 今井孝之 富田つや子 堀忠夫 梅田

正 高石信爾 小澤晋 中谷まゆみ

前田智絵 宮本恵介 石津実希帆

竹内ちづ子

【足羽ワークセンター】

(寄付・寄贈)

(株)福井建材社 ふくい若者サポートステーション 梅田健一 i-st(司

法書士法人)福井事務所 (株)カワグチ 渡辺冷凍食品(株) ヤスタウエル

フーズ(株)

(ボランティア・交流・訪問)

高村智子 松原智子 畑節代 ふくい若者サポートステーション 福井

健康づくり婦人の会

(研修・実習・見学)

福井県立福井南養護学校 福井県立福井東養護学校 福井大学教育地域

科学部特別支援学校 福井県立嶺北養護学校

【愛全園】

(寄付・寄贈)

青柳信男

(ボランティア・交流・訪問)

啓蒙保健衛生推進員 啓蒙ボランティア 啓蒙民踊クラブ 福井農林

高校郷土芸能部 福井市赤十字奉仕団 小木大正琴クラブ 斎藤さよ子

花亀会 山岡玲子 太田美代子 小本孝子 本多春子 奥村美枝子 中

嶋安子 坂本幸子 滝波博純 熊谷三和子 橘静枝 鈴木陽子 福井県

医療福祉専門学校 SBE80!

(研修・実習・見学)

福井農林高校 福井県医療福祉専門学校 福井商業高校 福井県警察学

立命館大学 仁愛大学 大阪産業大学 大垣女子短期大学

(寄付・寄贈)

(株)カワグチ

(ボランティア・交流・訪問)

福井市赤十字奉仕団 松宮あさ子

賀川美智枝 本多幸雄 児玉美子

乗竹洋子 まーまれーど美容室 宇都宮友美 丸山グループ まことコ

ワフール 美容室倶楽部浜田 小林慶由 永谷大輔 屋敷千恵子 前

田真理子 梯洋枝 オカリーナポルテ 定兼紘美 宮浦幸子 水上いづ

み 三寺智香子 吉江定伸 光仙彩乃 竹下千津子 藤本忠明 すずら

んの会 創体舞踊真心流 越前美山そは元気の会 フクイ・アロハレイン

ランスタジオのイリマ会 (株)カワグチ

北野竜神太鼓 よさこい咲恋組

(研修・実習・見学)

大原学園 福井県医療福祉専門学校 介護労働安定センター 福井県警察

学校 グレート

順不同・敬称略

編集後記

●文章作成にとても苦戦しました。やっと出来上がった(汗) 大島(保)

●初めての原稿作成。大変さを身を持って実感しました(汗)そのぶん、完成した喜びは大きいものですね (〃) 江上(学)

●初原稿です。日本語って難しいです... 宮下(更)

●2度目の育児休暇から復帰して、またまた広報委員を務めさせて頂きます♥皆様のご意見、ご感想お待ちしております★ 恵美(ワ)

●今回の愛道も、多くの方のご協力があり完成しました。少しずつ進化を遂げている愛道をお楽しみください。 長田(ワ)

●昔は気力と体力で翔んでいた夏

発行所

社会福祉法人 足羽福祉会

足羽東保育園・足羽学園
足羽更生園・足羽ワークセンター
愛全園・足羽利生苑

〒910-2178 福井市梅野町20-7
TEL(0776)41-3108/FAX(0776)41-3199
http://www.asuwafukushikai.jp/

発行責任者 高村昌裕

●音楽を題材に、楽しく記事を書くことができました。音楽の輪が広がりますように。 中川(愛)

●『人の和(輪)』を心に歩んでいこうと思えます。 栗波(愛)

●今年中にチャレンジしたいこと...それはパラグライダー★ 前田(利)

●あらためて写真の難しさを知りました。 本田(利)

●初の担当です。時代は変われど広く永く愛される広報誌に。その思いだけは変わらぬにありたいものです。 川縁(本)

●ふと、己のお腹をみるとプリン体の輪が...ワークセンターの職員さんと「明日は走ろうかい...」思ってた... 安田(本)

※誌面の写真・氏名についてはご本人(または法定代理人)の同意を得て掲載しています。